

ISSOKU

2015年

環境報告書

ISSOKU ENVIRONMENTAL REPORT 2014

(2014年度実績集)



株式会社 **第一測範製作所**



考えてます
未来のこと
ISSOKUのECO提案

当社の環境活動や本報告書に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

株式会社第一測範製作所 環境推進委員会事務局

〒947-0044 新潟県小千谷市大字坪野826番地2

TEL 0258-84-3911 FAX 0258-81-2113

E-mail : info@issoku.jp

環境理念・環境方針

—環境理念—

株式会社第一測範製作所は、地球環境の保全が重要課題であることを認識し、環境に配慮した事業活動を展開することにより、信濃川が育む「水と緑」豊かな地域社会と共生することを目指します。

—環境方針—

株式会社第一測範製作所は、精密測定機器・精密機械部品のメーカーとして、その事業活動を通じて環境保全に努めます。

1. 事業活動の全域で、廃棄物とエネルギーの削減に努めます。
2. 環境目的及び環境目標を技術的・経済的に可能な範囲で設定し、管理します。また、定期的な見直しにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
3. 環境保全に適した物品の調達及び製品のライフサイクルを考慮した環境調和型製品の開発を促進します。
4. 環境に関する法規制及びその他の要求事項を順守すると共に、汚染予防に努めます。
5. 環境方針を教育訓練及び啓蒙活動を通じて全社員に周知徹底し、社外にも公表します。

2007年8月1日 改訂

2014年度 環境重点目標と結果

環境目的	2014年度環境目標	2014年度活動結果
①環境調和型製品開発 有害物質を含有しない製品、環境負荷の少ない製品開発及び製品改良を行う。	◎市場ニーズに適合した環境調和型製品の開発及び販売を行う：年4件 ◎RoHS指令など環境法令の監視を行う。 ◎環境負荷を考慮した製品提案を行う（12件）。	★目標未達成 ・2件完了 ☆目標達成 ★目標未達成（0件）
②廃棄物対策 ゼロエミッションを目指した廃棄物の低減、省資源活動を推進する。	◎消費エネルギーの把握を行い、省エネルギー、省資源化、廃棄物削減による3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を推進する。 ・廃棄物発生量：2013年度生産金額比10%削減 ・リサイクル率85%以上（リサイクル廃棄物量÷総廃棄物量） ・焼却率15%以下（焼却廃棄物量÷総廃棄物量） ・材料歩留率85%以上{1-(廃棄量÷材料購入量)}	☆達成：前年度比15%削減 ★未達：リサイクル率78.7% ★未達：焼却率21.3% ★未達：材料歩留率84.2%
③省エネルギー対策 電力を主体とする省エネルギー対策の推進により地球温暖化防止と資源枯渇抑制を図る。	◎消費エネルギーの把握を行い、省エネルギー、省資源化、廃棄物削減による3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を推進する。 ・消費電力量：2013年度生産数量比5%削減 ・消費電力量：2013年度比3%削減 ・CO ₂ の排出量：2013年度生産数量比5%削減	★目標未達成 ・前年度数量比2.4%削減 ・前年度比8%増 ・前年度比3%削減
④化学物質対策 使用量を抑制及びリスクマネジメントの強化により、環境負荷の低減と環境事故防止を図る。	◎製品含有化学物質管理を行い、有害物質の全廃に努力する。化学物質の購入—保管—使用—廃棄を適正に管理し、使用量の低減と環境事故防止に務める。 ・化学物質廃棄：2013年度比15%削減 ・環境事故・環境クレーム発生：0件 ・RoHS規制物質の全廃を維持する。	★未達：7.7%削減 ☆達成：0件 ☆達成
⑤環境コミュニケーションの充実 職場内、地域や取引先とのコミュニケーションを活性化し、環境意識を向上させる。	◎行政や地域、取引先とのコミュニケーションを通じて環境活動を推進する。また、工場周辺及び地域の緑化と美化を行う。 ・情報公開、会議&イベント：年5案件 ・クリーン活動、不法投棄の回収：年2回（6月、10月）	☆目標達成 ☆目標達成

環境保全に関する取組

- 水質汚濁防止法に基づく変更の承認～実施。
- 上越環境科学センターによるコバルト調査実施。
- フロン排出抑制制御法に関する定期点検及び簡易点検の実施。

CO₂の排出状況

CO₂の総排出量の推移

年 度	CO ₂ 総排出量 [t] ※1	前年度比（排出量比） ※2	前年度比（生産数量比） ※2	2004年度比（生産数量比） ※2
2004年度	1,771	14.8%	△23.2%	
2005年度	1,883	5.9%	0%	△0.1%
2006年度	1,762	△8.2%	△18.6%	△18.7%
2007年度	1,693	△1.7%	3.3%	△16.0%
2008年度	1,478	△12.7%	10.5%	△7.1%
2009年度	1,274	△13.8%	18.6%	10.1%
2010年度	1,504	18.1%	△32.7%	△25.9%
2011年度	1,239	△17.6%	△22.8%	△42.8%
2012年度	1,204	△2.8%	2.3%	△41.5%
2013年度	1,125	△6.5%	△37.8%	△63.6%
2014年度	1,207	7.2%	△3%	△64.0%

※1 環境省のホームページより最新版の排出係数を使用し排出量を計算。

※2 各年度比は、増減を示しています。

環境会計

環境保全コスト（事業活動に応じた分類）

分 類	主 な 取 組 の 内 容	設備投資額 (千円)	費用額 (千円)
(1) 事業エリア内コスト			31,978
内 訳	(1)-1 公害防止コスト	土壌汚染、水質汚濁防止のためのコスト	1,661
	(1)-2 地球環境保全コスト	地球温暖化防止、省エネルギーのためのコスト	29,206
	(1)-3 資源循環コスト	産業廃棄物処理・処分のためのコスト	1,111
(2) 上・下流コスト	環境配慮型商品購入のためのコスト		0
(3) 管理活動コスト	ISO14001の運用、環境教育などのためのコスト		2,126
(4) 研究開発コスト	地球保全に資する製品などの研究開発のためのコスト		0
(5) 社会活動コスト	地域清掃、緑化などのためのコスト		0
(6) 環境損傷対応コスト	事業活動が環境に与える損傷に対応するためのコスト		0
小 計			34,104
合 計			34,104

環 境 保 全 効 果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標（単位）	2013年度 ※1	2014年度	前年度との差
事業活動に投入する資源に関する 保全効果	原油換算総エネルギー投入 (kℓ)	509	587	78
	原油価格※2より金額換算 (千円)	35,879	24,866	△11,013
	水資源投入量 (千 t)	8	10	2
事業活動から排出する環境負荷及 び廃棄物に関する環境保全効果	廃棄物総排出量 (t)	72	63	△9

※1 2014年度と同じ生産金額であったと仮定したときの数値（環境保全効果）

※2 原油価格は、2015年4月時の値を使用（42,362円/kℓ）